

# 形容動詞「立派」のヘッジ機能

梶原 彩子

## 1. はじめに

ヘッジは、人間のカテゴリー認識を示す言語表現である。例えば、例(1)(2)のように、ヘッジの1つである *Loosely speaking* の容認度の差からは、人間のカテゴリー認識には、典型例(「椅子」)から周辺例(「電話」)へと、帰属度に段階性があることがわかる<sup>1)</sup>。

(1) *Loosely speaking*, a telephone is a piece of furniture.

(大雑把に言えば、電話は家具である)

(2) ?? *Loosely speaking*, a chair is a piece of furniture.

(大雑把に言えば、椅子は家具である)

(Taylor 2008: 129)

例(1)(2)のように、*Loosely speaking* は家具カテゴリーの成員として一般的でない「電話」には使用できるが、典型的な成員である「椅子」には使用しにくい。この容認度の差は、*Loosely speaking* がカテゴリーの周辺例や非成員をより確実な成員とのわずかな類似性に基づいてカテゴリーに含むというヘッジ機能を持つ表現であることから生まれる。また、ヘッジにはこのようなカテゴリー帰属の段階性を表す機能(意味論的ヘッジ)に加え、発話行為の調整に関わる待遇表現的な機能(語用論的ヘッジ)も指摘されている(Fraser 1975, 1980, Brown and Levinson 1979, Holmes 1984他)。ヘッジ機能は典型的には副詞や構文などが担うとされる(Lakoff 1972)が、基本義がヘッジでない形容詞や形容動詞が派生義でヘッジ機能を獲得することもある。

例えば、形容動詞「立派」は、以下の例(3)(4)からわかるように<sup>2)</sup>、基本義には認められないヘッジ機能が派生義に確認できる。

(3) Aさんは、立派な方である。

(4) 手足口病は、立派な伝染病である。

基本義の例(3)では、「立派」が対象の素晴らしさを表すのに対し、派生義の例(4)では、「立派」は「(手足口病は)伝染病らしくないように思われるが、実際は伝染病である」という意味を表す。つまり、「立派」は周辺例を類似性に基づいてカテゴリーに含むと

いうヘッジ機能を派生義として獲得していると言える。

意味拡張の観点からのヘッジ機能の分析は、日本語の程度副詞やモダリティ表現で研究があり、基本義のカテゴリー帰属を表す機能から発話者の確信度を表す待遇表現的な機能への意味拡張、意味論的ヘッジから語用論的ヘッジの連続性も指摘されている。また、意味拡張を経て、複数の待遇表現的な機能を持つといった語用論的ヘッジの下位構造を記述した研究もある（平田 2001、牧原 2001、尾谷 2005、福原 2013 他）。しかし、形容詞や形容動詞のヘッジ機能の構造の記述や、意味論的ヘッジ機能と語用論的ヘッジの連続性の検証に焦点を当てた研究は管見の限り見当たらない。派生義でのヘッジ機能の発生およびその過程に着目し、その機能を詳細に見ることは、ヘッジ機能が発生する一般的な経路を解明する一助になると考える。

本稿では、先行研究において派生義のヘッジ機能の発生が指摘されている形容動詞「立派」のヘッジ機能の構造を明らかにすることで、ヘッジ機能の発生過程、意味拡張の動機付け、形容動詞における意味論的ヘッジと語用論的ヘッジ機能の連続性を検討する。

## 2. 先行研究

今井 (2008) は、一部の名詞修飾表現の派生義が意味拡張によってカテゴリー帰属を表すヘッジ機能を持つことを「立派な」「完全な」「いい」「下手な」を例に指摘している。例えば、「立派」では、評価的意味を表す用法 A (以下、例 (5a)) から周辺例のカテゴリー帰属を表す用法 B (以下、例 (5b)) への意味拡張がある。用法 B が拡張義と言える根拠として、例 (6) (7) のようなテストが示されている<sup>3)</sup>。

- (5) a. 新しい校舎は立派な建物だ。  
b. 万引きは立派な犯罪だ。
- (6) a. 新しい校舎は {とても／非常に／かなり／相当} 立派な建物だ。  
b. 新しい校舎はあまり立派な建物ではない。  
c. その建物は立派だ。  
d. 世の中には立派でない人もいる。  
e. 新しい校舎は、古い校舎より立派な建物だ。  
f. 田中君の息子か。あれは (立派な) 人間だ。田中君の息子にしておくのは惜しいくらいだ。
- (7) a. !殺人は {とても／非常に／かなり／相当} 立派な犯罪だ。  
b. !万引きはあまり立派な犯罪ではない。  
c. !その犯罪は立派だ。  
d. !世の中には立派でない犯罪もある。  
e. !痴漢は、万引きより立派な犯罪だ。  
f. 撃つんじゃない! 動物に見えるかもしれないが、あれは (立派な) 人間だ!

(今井 2008: 500-503, 例 (5)-(13))

用法Aでは、程度副詞による修飾(6ab)、叙述用法(6c)、否定形(6d)、比較構文内での使用(6e)が可能である。また、(6f)のように「立派」を削除すると「賞賛すべき人」という解釈が成り立たず、省略による知的意味の変化がある。一方、拡張義であるカテゴリ一帰属を表す用法Bでは、程度副詞による修飾(7ab)、叙述用法(7c)、否定形(7d)、比較構文内での使用(7e)が不可能であり、(7f)のように「立派」を削除した場合にも文の解釈は変わらず、省略による知的意味の変化がない。この用法上の制約から、今井は「立派」の肯定的評価を表す用法A(例(5a))が基本義、周辺例のカテゴリ一への帰属を表す用法B(例(5b))が拡張義であるとする。しかし、「立派」のヘッジ機能には今井のテストでの振る舞いは似ているものの、意味的に周辺例のカテゴリ一帰属を表しているとは思えないものがある。

- (8) 万引きは立派な犯罪だ。(= (5b))
- (9) 毎日朝まで韓ドラ、休みの度にロケ地巡り…立派なおたくでしょう。
- (10) 休みの日も授業研究なんて、もう立派な教育者だよ。

例(8)では「そう見えないが万引きは犯罪だ」と言えるが、例(9)(10)は「??そう見えないけど、おたくでしょう」「??そう見えないけど(もう)教育者だ」とは言いにくい。例(9)(10)も話者が対象をカテゴリ一の周辺例と捉えていると考えにくい。むしろ、「誰が見てもおたくでしょう」「誰が見ても教育者だ」のように、話者が対象をカテゴリ一の中心的な成員として捉えているという解釈の方が自然である。したがって、用法Bとされる「立派」のヘッジ機能は周辺例を表す機能以外にも、複数の機能があると考えられる。

### 3. 「立派」におけるヘッジ機能の分析

「立派」の複数のヘッジ機能を検討していく。まず、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)で連体修飾「立派な」が使用された2341例のうち無作為に500例を抽出した。今井(2008)の示す条件(程度副詞による修飾、叙述用法、否定形、比較構文内での使用が不可能、省略による知的意味の変化がない)を満たす109例についてヘッジ機能を持つ派生義と認定した<sup>4)</sup>。この例を「立派」と他のヘッジ表現との置き換え可否や前後文脈から判断される対象XのYカテゴリ一への帰属(「XはYだ」「XはYではない」)に対する話者および世間の認識、共起する表現などから分析した。その結果、「立派」のヘッジ機能として、対象Xがカテゴリ一Yの成員か否かという①カテゴリ一の成員性を焦点化する機能、対象Xがどの程度カテゴリ一Yの成員らしいのかという②カテゴリ一の段階性を焦点化する機能が認められた。また、①②には世間の認識の様相が異なる下位機能が2つずつ認められた。3.1、3.2で、各機能を見ていく。

### 3.1 ①カテゴリーの成員性を焦点化する機能

以下の例(11)～(14)は、先行研究で指摘される「立派」のヘッジ機能である「話者が話題の対象をカテゴリーの周辺例と捉えている」という解釈がしにくい。

- (11) 結城ひとみが捕虜のように少年に引き立てられて車から出てきた。ガムテープで口を塞がれ後ろ手に縛られているひとみはすぐに涼子が十人もの不良たちに囲まれて孤立無援であることに気付き、恐怖に青ざめた。「あんたたち、これが立派な誘拐だって分かってるわね！？今ならまだ見逃してあげるわ。さあ、ひとみを放しなさいよ！」(BCCWJ: 図書館・書籍, 雑賀礼史(1997)『リアルバウトハイスクール』富士見書房)<sup>5)</sup>
- (12) とりあえずは本人が面白いことで、それを他人が評価してくれたりしたら、もうあなたは立派な冗談彫刻家である。(BCCWJ: 図書館・書籍, 安達忠良(1988)『うお！冗談彫刻』山海堂)
- (13) (前略) 読み書きをすることばかりが文字教育ではありません。ふだんの生活の中でお母さんと楽しく会話をすること、絵本を読んでもらうこと、繰り返しお話を聞くこと、歌をリズム正しく歌うこと、しりとりやカルタで遊ぶこと、あるいは手近な紙になぐりがきをいっぱいして、いろいろな線をかき慣れていることなど、すべてが読み書き教育の立派な基礎となっています。(BCCWJ: 図書館・書籍, 堤道子(2001)『パパ・ママのための育児Q&A 1500』保健同人社)
- (14) 私たち兄妹は、母の気まぐれをすべて受け入れ、心配性の母が決めたとおりにすることを余儀なくされた。(中略) 母は妹にピアノを、そして私にはヴァイオリンを習わせたが、これは母にしてみれば立派な文化的教育の一環だったのである。(BCCWJ: 図書館・書籍, ルイ・アルチュセール, 宮林寛(訳)(2002)『未来は長く続く』河出書房新社)

例(11)は、ガムテープで口を塞がれ、後ろ手に縛られているといった状況が挙げられ、それらを満たした「(この状況は) 誘拐である」と話者が聞き手に告げている。例(12)でも、本人が面白いこと、他人の評価といった「冗談彫刻家」カテゴリーに帰属するための条件が挙げられ、それらを満たせば「あなたは冗談彫刻家である」と話者が聞き手に告げている。このように、例(11)(12)は、話者が聞き手にXが持つ条件がカテゴリーYへの帰属条件であることを述べる文脈で「立派」が用いられている。また、例(13)は、前文脈で「読み書きをすることばかりが文字教育ではありません」と一般的に「読み書きをすること」だけを「文字教育である」と考える世間の認識が示された後、楽しく会話をすること、絵本を読んでもらうこと、お話を聞くこと、歌うことなど、話者が考える「読み書き教育」の事例を挙げ、それらも「読み書き教育の基礎である」という話者の認識を述べている。例(14)では世間の認識は明示されないが、「私たち兄弟」が「母の気まぐれ」と捉えているピアノ、ヴァイオリンといった教育(習い事)の事

例を挙げ、それらが「母にしてみれば文化的教育の一環だった」と母の視点からカテゴリー化する。このように、例(13)(14)は、話者が聞き手に異なる視点からXをカテゴリーYの事例として挙げる文脈で「立派」が用いられている。

続いて、次の例(11')~(14')で「立派」がカテゴリーの周辺例を取り上げる表現(「そう見えないけど」「Yらしくない」と置き換わらないことから、ここでの話者の認識は、先行研究が指摘する「XはYカテゴリーの周辺例である」ではないことがわかる。

- (11')?? あんたたち、これが{そう見えないけど/誘拐らしくない} 誘拐だって分かっているわね
- (12')?? それを他人が評価してくれたりしたら、もうあなたは{そう見えないけど/冗談彫刻家らしくない} 冗談彫刻家である。
- (13')?? すべてが読み書き教育の{そう見えないけど/基礎らしくない} 基礎となっています。
- (14')?? これは母にしてみれば{そう見えないけど/文化的教育らしくない} 文化的教育の一環だった

他方で、次の例(11'') (12'')で「立派」がカテゴリーの中心的な成員であることを示す表現(「Yらしい」と置き換わらないのに対し、例(13'') (14'')では置き換わる。つまり、例(13) (14)の話者の認識は「XはYの中心的な成員である」と言える。

- (11'')?? あんたたち、これが誘拐らしい誘拐だって分かっているわね
- (12'')?? それを他人が評価してくれたりしたら、もうあなたは冗談彫刻家らしい冗談彫刻家である。
- (13'') すべてが読み書き教育の基礎らしい基礎となっています。
- (14'') これは母にしてみれば文化的教育らしい文化的教育の一環だった

以上から、例(11) (12)の「立派」は、話者の「XはYである」という認識のみを表し、中心的な成員や周辺例を表さず、カテゴリーの成員らしさを問題としないのに対し、例(13) (14)の「立派」は、XがYの中心的な成員であるという話者の認識を表し、成員らしさを問題とすることがわかる。前者は、世間の認識を問題とせず「XはYである」という話者の認識のみが「Xは立派なYだ」で示される。後者は、Yとして扱われることが言語化されにくかったり、一般的にYとして扱われなかったりするXに対し、「立派」を用いて「XはYである」という話者の認識が示されることで聞き手の関心を引く。その結果、聞き手は、世間ではこのようなカテゴリー化自体に認識が薄いこと、世間の認識としても「XはYである」「XはYでない」という反対の認識があることにも関心を向けるようになる。

### 3.2 ②カテゴリーの段階性を焦点化する機能

続いて、先行研究で指摘されている、話者が話題の対象をカテゴリーの周辺例として認識しているものを示す。

- (15) 昔は一という説明はこの娘には意味がなさそうだ。いまは将棋指しだって立派なカタギの職業なのだから。(BCCWJ: 図書館・書籍, 内田康夫(1990)『王将たちの謝肉祭』角川書店)
- (16) スイスの海軍は、ボート湖に浮かぶ百トン程度の艦艇しか所有していないが、立派な軍隊である。(BCCWJ: 図書館・書籍, 堺屋太一(1993)『組織の盛衰』PHP研究所)
- (17) 一般には食前酒として不向きでも、つくり方を少し変えれば十分食前酒として通用するものもあります。(中略) ミネラルウォーターも立派な食前酒 アルコール類以外でも食前酒として好まれるものがあります。酒ではないので食前酒と言えないのではないかと思うかもしれませんが、食前酒と同じ働きをするという意味から、これも食前酒に入れています。(BCCWJ: 図書館・書籍, 実著者不明(1995)『ホテル・レストランのマナーマニュアル』チクマ秀版社)
- (18) この島は政治的には独立していて、独自の政府や議会、法律をもつ。儀式にはケルト系の古いマンクス語も用いられる。お金も発行しているし、郵便切手も、マン島発行のものでないと使用できない。かたちとしては、これも、立派な一つの独立国であって、それが広い意味のイギリスのなかに入っている。(BCCWJ: 図書館・書籍, 田村明(1995)『イギリスは豊かなり』東洋経済新報社)

例(15)(16)は「～だって」という取り立て表現や「昔は一という説明はこの娘には意味がなさそう」「スイスの海軍が百トン程度の艦艇しか所有していない」という記述から、話者が世間の認識としては「XはYである」「XはYでない」いずれの認識もあることに関心を向けていることがわかる。その上で「Xは立派なYである」と述べるため、同時に、聞き手にXはYの周辺例であることが示される。例(17)(18)では「食前酒と言えないのではないかと思うかもしれませんが」「これも食前酒に入れる」といった暫定的なカテゴリー化を表す表現や「かたちとしては(事実は異なる)」という限定表現、「これも」という取り立て表現が使われていることから、世間の認識は「XはYでない」と話者が考えている様子を読み取れる。その上で「Xは立派なYである」と述べるため、聞き手には、話者がXをカテゴリーYの周辺例として一時的にカテゴリー化していることが示される。では、話者は、対象XがカテゴリーYのどのような成員だと捉えているのか。

- (15) いまは将棋指しだって {そう見えないけど/カタギらしくないけど} カタギの職業なのだから。

- (15'')?? いまは将棋指しだってカタギの職業らしいカタギの職業なのだから。
- (15''') 将棋指しはカタギの職業だ
- (16'') スイスの海軍はボーデン湖に浮かぶ百トン程度の艦艇しか所有していないが、{そう考えにくいけど/軍隊らしくないけど} 軍隊である。
- (16''')?? スイスの海軍はボーデン湖に浮かぶ百トン程度の艦艇しか所有していないが、軍隊らしい軍隊である。
- (16''') スイスの海軍は、ボーデン湖に浮かぶ百トン程度の艦艇しか所有していないが、軍隊だ
- (17'') ミネラルウォーターも {そう見えないけど/食前酒らしくないけど} 食前酒なのです。
- (17''')?? ミネラルウォーターも食前酒らしい食前酒なのです。
- (17''')?? ミネラルウォーターは食前酒だ
- (18'') これも、{そう見えないけど/独立国らしくないけど} 一つの独立国
- (18''')?? マン島も、独立国らしい一つの独立国であって、
- (18''')?? マン島も、一つの独立国だ

「立派」が「そう見えないけど」「Yらしくないけど」などのカテゴリーの周辺例を取り上げる表現と置き換えられる(例(15'')~(18''))一方で、「Yらしい」といったカテゴリーの中心的な成員を表す表現とは置き換えにくい(例(15'')~(18''))。このことから、話者はXをカテゴリーYの周辺例と捉えていることがわかる。世間の認識も、例(15'') (16'')で「XはYである」が成り立つのに対し、例(17'') (18'')では容認度が下がることから異なっていることがわかる。例(15'') (16'')では、相反する世間の認識「XはYである」「XはYでない」があることを話者が意識した上で話者の認識「XはYである」を述べても完全にずれるわけではない。しかし、例(17'') (18'')では話者の認識「XはYである」と世間の認識「XはYでない」にずれが大きいため容認度も下がる。例(17'') (18'')のような「立派」は、世間の認識では「食前酒である」「独立国」とは言いにくい「ミネラルウォーター」や「マン島」を「食前酒」「独立国」として一時的に扱うことを聞き手に示す働きをしている<sup>6)</sup>と考えられる。「立派」を用いることで、「XはYである」という話者の認識と「XはYでない」という世間の認識のずれが示され、聞き手の推論が促されると考えられる。

### 3.3 「立派」におけるヘッジ機能のまとめ

ここまで、形容動詞「立派」のヘッジ機能には、①カテゴリーの成員性を焦点化する機能、②カテゴリーの段階性を焦点化する機能があることを示した。この結果をまとめたものが表1である。

表1 「立派」のヘッジ機能

機能	①カテゴリーの成員性を焦点化する機能		②カテゴリーの段階性を焦点化する機能	
下位機能	①-1「XはYである」という話者のカテゴリー化を述べる	①-2「XはYである」という話者のカテゴリー化に加えて、カテゴリーYの中心的成員としてのXの特徴を述べる	②-1「XはYである」という話者のカテゴリー化に加えて、カテゴリーYの周辺例としてのXの特徴を述べる	②-2「XはYである」という話者のカテゴリー化に加えて、「XはYでない」という世間の認識を踏まえカテゴリーYの周辺例としてのXの特徴を述べる
話者の認識	「XはYである」	「XはYである」 「XはYの中心的成員である」	「XはYである」 「XはYの周辺例である」	「XはYである」 「XはYの周辺例である」
世間の認識	「XはYである」 「XはYでない」	「XはYである」という認識なし／薄い 「XはYでない」	「XはYである」という認識なし／薄い	「XはYでない」
共起する表現	条件表現 完了表現	視点固定表現 (「～にしてみれば」「いまでは」) 断り表現(「～が」「～でも」) 並列表現(「など」)	取り立て表現 (「も」「だって」)	暫定的なカテゴリー規定表現 (「これも～に入る／入れる／とする」)
本稿の例	例(11)(12)	例(13)(14)	例(15)(16)	例(17)(18)

まず、①カテゴリーの成員性を焦点化する機能には、下位機能として2つある。第1に、「このようになれば」といった条件や「もう」「すでに」といった完了表現を伴って話者自身のカテゴリー化を表す(例(11)(12))機能である。次に、「～にしてみれば」といった他者の視点を固定する表現や断り表現、具体的な例の列挙を伴って話者自身のカテゴリー化を表す(例(13)(14))機能である。前者では、「XはYである」というカテゴリーの成員性のみが焦点化される。それに対して、後者では、「立派なY」で話者のカテゴリー化が示されることで、世間の常識として「XはYである」という認識なし／薄い「XはYでない」という状態であった聞き手も、「XはYである」という考えに関心が向く。その結果、XがYの中心的な成員であるというXとYの関係が際立つため、カテゴリーの成員性が焦点化される。この機能①は、成員性を問題としているため、意味論的ヘッジとして位置づけられる。

②カテゴリーの段階性を焦点化する機能にも、下位機能として2つある。まず、「Xだって／も」のような取り立て表現を伴って話者自身のカテゴリー化を表す機能(例(15)(16))である。そして、「(これも)～に入る／になる／とする」といったカテゴリーの範囲を一時的に操作するような表現を伴って話者自身のカテゴリー化を表す機能(例(17)(18))である。前者では、世間の認識として「XはYである」「XはYでない」いずれもあることに聞き手の関心を引くことで、世間の認識としてもXがYの周辺例であることが際立ち、カテゴリーの成員性と同時に段階性が焦点化される。後者では、世間では「XはYでない」という認識のXとカテゴリーYの関係性に聞き手の関心を向けた上で、「立派」を用いて「XはYである」という話者の認識を表すことで、周辺例としてのカテゴリーYの特徴が際立ち、特にカテゴリーの段階性が焦点化される。機能②では、話者が世間の認識をより強く意識した上で話者自身の認識を述べる際に「立派」を用いることから、語用論的ヘッジ機能として位置づけられる。

成員性のみを問題とする意味論的ヘッジ(表1の下位機能①-1)から話者と世間の認識のずれを問題とする語用論的ヘッジ(表1の下位機能②-2)へ行くほどXとカテ



ゴリー Y に対する世間の認識の反映が強くなっていく。つまり、「立派」のヘッジ機能が話者だけの認識を述べる機能から聞き手を意識した上で話者の認識を述べる機能へと拡張している。以上のことから、派生義においてヘッジ機能の発生が見られる形容動詞「立派」においても、カテゴリー帰属を表す意味論的なヘッジ機能と語用論的ヘッジとしての機能は連続的にあると考えられる。

#### 4. おわりに

本稿は、ヘッジ機能が発生する一般的な経路を解明する一助とすることを目的として、派生義におけるヘッジ機能の発生が先行研究で指摘されている形容動詞「立派」のヘッジ機能と構造を記述した。形容動詞「立派」には、先行研究で指摘のあるカテゴリーの周辺例の焦点化（「XはYの周辺例である」）以外に、カテゴリーの成員性の焦点化（「XはYである」）、カテゴリーの中心性の焦点化（「XはYの中心的成員である」）といったヘッジ機能が複数存在することを指摘した。このことから、基本義の肯定的評価からカテゴリーの周辺例の焦点化という機能への意味拡張の中間段階として、カテゴリーの成員性と段階性（特に、中心性）を焦点化する段階があることが示唆される。今後は、意味拡張の動機づけや拡張経路の検証、ヘッジ機能の発生条件となる基本義の意味特徴の記述を行い、派生義でヘッジの発生が見られる「立派」と似た振る舞いの語との比較を通して、ヘッジ機能の拡張経路の全体像を解明したい。

#### 注

- 1) 例文の後の（ ）内に引用例の出典を示す。例文の後に、出典のないものは筆者による作例であることを表す。
- 2) 例文中の「立派」は下線（太線）を施す。「立派」の解釈に重要だと思われる諸情報（根拠、背景、感情等）には点線を施す。例文の文頭の「??」は例文の容認度が低いこと、「？」は例文の容認度がやや低いことを表す。
- 3) 今井(2008)では、用法Bとしての解釈が難しい例に「！」が用いられている。また、(6f)は {立派な / \*φ} が (7f)は {立派な / φ} のように、「立派」の省略による知的意味の変化を表す。
- 4) 本稿では、ヘッジ機能の発生およびその過程に着目しているため、今井(2008)が挙げた程度副詞による修飾、叙述用法、否定形、比較構文内での使用が不可能であり、省略による知的意味の変化がないという条件のうち、一部の条件を満たさない例もヘッジ機能を確立する過程にあるものと判断し、ヘッジ機能の例として扱う。
- 5) 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』からの引用はBCCWJと記し、レジスター、執筆者、出典、出版年、出版社を記す。
- 6) 「XはYである」という話者の認識と「XはYでない」という世間の認識のずれが表されるといふ「立派」の働きによって、カテゴリー Y がメタファー表現となる「野原ヒロシの足の臭いは立派な兵器ですよね? (Yahoo! 知恵袋2012/7/16)」のような例

も観察される。「立派」を用いることで、本来は兵器とは言えない「足の臭い」が「兵器」として扱われるという例である。

#### 参考文献 (英語)

- Brown, Penelope and Levinson, Stephen C. 1979. Social structure, groups and interaction. In H. Giles, and K. R. Scherer (eds.), *Social markers in speech*: 291-341. Cambridge University Press.
- Fraser, Bruce. 1975. Hedged performatives. In Petar Cole and Jerry Morgan (eds.) *Syntax and Semantics 3, Speech Acts*: 187-210. New York: Academic Press.
- Fraser, Bruce. 1980. Conversational mitigation. *Journal of Pragmatics* 4 (4) : 341-350.
- Holmes, Janet. 1984. Hedging your bets and sitting on the fence: Some evidence for hedges as support structures. *TeReo* 27: 47-62.
- Lakoff, George. 1972. Hedges: A Study in Meaning Criteria and the Logic of Fuzzy Concepts. *Journal of Philosophical Logic* 2: 458-508.
- Taylor, John R. 2003. *Linguistic Categorization*. (3rd ed.) Oxford: Oxford University Press. (辻幸夫他 (訳) (2008) 『認知言語学のための14章』東京: 紀伊國屋書店.)

#### 参考文献 (日本語)

- 今井忍 (2008) 「日本語カテゴリー-帰属表現について」 児玉一宏 (編) 『言葉と認知のメカニズム-山梨正明教授還暦記念論文集』499-513. 東京: ひつじ書房.
- 尾谷昌則 (2005) 「接尾辞ポイのモダリティ化」 『日本語用論学会大会研究発表論文集』1: 17-24.
- 梶原彩子 (2015) 「『立派』の意味分析」 『言葉と文化』16: 1-18.
- 平田真美 (2001) 「『カモシレナイ』の意味: モダリティと語用論の接点を探る」 『日本語教育』108: 60-68.
- 福原裕一 (2013) 「『～みたいな』表現の分析」 『国際文化研究』19: 101-116.
- 牧原功 (2001) 「談話における『ちょっと』の機能」 『群馬大学留学生センター論集』1: 1-11.

#### 用例検索

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』 「中納言」 (BCCWJ-NT)  
(<https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwj-nt/search>) (最終閲覧日 2022年8月20日)

付記: 査読の方から多くの貴重なコメントを頂いたことに感謝申し上げる。本稿は未公開の博士学位論文の一部を加筆修正したものである。 (国士舘大学)